

20/

謹啓師走も押し迫り何かと心忙しき昨今ですが
 貴取には御壯健のこと、御推察申上ります。
 北大前林の長に申し入れられた事でありませ
 が北大教授見玉作左衛門氏(当時解剖学担当)
 が在取中。白老く自高(平取内別荘内、新冠補
 河様似等)も広域にわたつては御研究のため
 必要と稱して、アイヌ民族の墓を当局の許可
 なく盗掘し人骨ばかりでなく墓の中にあつた
 装飾品まで一切を礼儀に持ち去つた事実
 があります。その人骨体数一五〇体と言
 われております。これはすやて北大の名にお
 いて実行されたのである。当時、教授について
 来た学生も五、六名いた筈です。その人骨

を持ち帰つてからどんな研究をいたのか
 そして、その人体の取り扱いは当時も現在も
 どのような措置を⁴しているのか、その保管状
 況を明らかにして頂きたい。

総括的には前記でつきますのでありますが、

北大兎王教授は、

(一) 何を研究するためにアイヌ民族の人体骨を
 一五〇〇体も必要といたのか、

(二) 又葬儀品(人骨と一諸に埋葬していた品々)は
 何を研究するために必要としたのか、

(三) 研究終了後遺族に返還する約束になつて
 いたがなぜ返還しなかつたかその理由、

(四) 合同慰霊祭を一度も実施していないのは

遺族に対し余りにも失礼ではないか、

(五) コレクシヨンとして取り扱っているのはどう

な理由からか、

以上の点について明確にして載せたい。

北大としても当時これだけの大掛りな研究の
ための発掘作業をいたしたのであるから莫大な費
用を必要としていたゆきであるから、局長なり
大学当局の許可を受けていることは明らかで
す。大学の責任について明示されたい。

林前学長は兎も教授が死んでおり長い期
間が過ぎているので調査の期間を遷して欲しい
とのことであつた。それから一年経過しています。
研究のためには佳木めたものは有償・無償を由わ

ず北大では個人の所有になるのかどうか明
示していただきたい、

アイヌ民族の生証人かいる中に事の決着を
つけたいので、嚴重な調査を要請します。

人骨の保管状況を見せて頂きにお伺いする

予定ですので、御都合良き日を御通知願

たい。新聞によると、
かそのコレクション

と稱するものの一部を自老の資料館に寄贈

するとあるが、本来、
個人の所有でないもの

を、
が寄贈するなどあり得ないことで

ある。或り行きによつては徹底的に糾弾

する決意でおりますので、
と具に剣に取組ん

で、
取り組み方について折返し御一

報おぬがいます。これ以上のアイヌ民族に
対する冒瀆は絶対に許されません。
新学長には大変なことで、ようが再度申入れ
致します。

一九八一年十二月二十一日

北海道大学

学長殿

[Redacted signature and name]